

新郷村教育委員会
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿
 - (1) 児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
 - (2) ICTの特性を最大限に活用して、誰1人取り残すことなくきめ細かな支援し、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
 - (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、デジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

2. GIGAスクール第1期の総括

GIGAスクール構想の下、校内有線LAN及び無線LANの整備や1人1台端末、大型提示装置と書画カメラの配置等、学校におけるICT環境の充実を図ってきた。また、ICT支援員の配置をするなど、ICT機器を活用した授業改善のサポートを行っている。

学習用端末については、平成30年度から令和2年度にかけて国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）等を活用し、令和2年度までに1人1台端末の整備を完了した。

令和2年度に教室への無線LAN整備及び電源キャビネットの整備を実施したほか、当該校内通信ネットワークのためのインターネット回線（各校1Gbpsベストエフォート）を整備し学習用無線LANの運用を開始した。また、指導者用の情報端末についても「学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業」等を活用し整備を行った。

ハード面の整備と共に、ICT機器を活用した授業改善に向けた研修を行い、学習用ツール等を活用した授業改善を進めている。しかし、十分な研修結果を得られたとは言えない。また、デジタル教材等のソフト面の十分な整備が伴っていなかったため、児童生徒が主体的に学習に取り組み、個別最適な学びを推進するところまでは至らなかった。

そのため、GIGA第2期においては、指導者及び学習者に関わらず、場所や時間に捕らわれない学習環境の構築を目指す。そのため、1人1台端末の持ち帰り等を推進し主体的に学習に取り組み、個別最適な学びの充実に向けた学習機会の充実を目指す。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末については、公教育の必須ツールとしての役割を踏まえ、計画的な維持・更新に取り組む。さらに、学校の通信環境については、授業等で多くの児童生徒が1人1台端末を一斉接続しても安定的に利用ができる通信環境の確保に努め、ボトルネックなど、ICT利活用の障害となる要因への対策を講じていき、新たな学びへの支援を行う。また、アクセス制御による対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系ネットワークの統合や汎用のクラウドツールの積極的な活用を推進する。1人1台端末を活用した授業実践のための教員研修等を通じて、紙とデジタルの併用の在り方や創意工夫を生かした学習活動の充実、アクセシビリティの向上等、これまでの実践とICTのベストミックスを目指した活用方法を検討し、ICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるような学習機会の創出を目指す。そのため、デジタル教材や学習に活用できるソフトウェアやサービスの活用を推進する。その上で、教育データを活用して児童生徒が主体的に学習に取り組み、才能を伸ばす個別最適な学びに繋げる取組を展開する。また、児童生徒が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、協働的な学びの充実を目指したICTの活用方法について有効事例等の情報を共有し、教員の知見を広げる取組を展開する。

教室での学びが困難な児童生徒が希望する場合、授業等の双方向のオンライン配信等行ってきた。コミュニケーションツールや共同作業ツール等の利活用を進め更なる学習機会を確保できるような取組を展開する。また、児童生徒の各ツール等を活用した相談や支援体制の構築を目指す。

障害等ある児童生徒、外国語を母語とする児童生徒、その他特別な支援を要する児童生徒等の実態等に応じて各ツール等を活用した相談や支援体制の構築を目指す。